

【小学校5～6年生】 中学受験、その目的は親子で共有できていますか？

子供の中学受験を考える時、皆さんは何を基準にして受験することを決めるのでしょうか。

子供自身に体力・気力・競争心がある場合や、兄姉も受験したなど中学受験を自然に受け入れる雰囲気がある場合は、比較的スムーズにいくかもしれません。しかし、すべてが、上手くいくとは限りません。私たちは、受験する目的と意味をきちんと家族で話し合っておくことは、必要だと考えます。何故ならば、受験をしたことがきっかけで、子供が不登校や引きこもりになってしまったケースの相談をいくつも受けているからです。

例えば、《勉強は普通程度で、おとなしく過ごしてきた子供のケース》です。祖父母の受験への要望が強いなどの周囲の雰囲気が作用した、「受験させる！」という強い流れに家族が巻き込まれてしまいました。子供は塾に通い、本人なりに頑張ったけれど志望校には不合格で、受験に失敗。地元の公立中学に進学し、入学式を無事に終えたと思ったら、その直後に不登校になり、引きこもってしまいました。

このケース、本人が不登校となり、引きこもったのには、いくつかのわけがありました。この子供は、訳も分からず受験をし、周囲から「頑張れ」と追い立てられた結果、疲弊してしまったのです。周りの目を気にするばかりに、失敗したことが恥ずかく、家や学校で立場がなくなったと思い込んでしまい、そして、自分にとって、何のための「受験」だったのか、解らなくなってしまいました。大人や社会への信頼も失ってしまったのかもしれませんが、受験に巻き込んだ大人たちが、大人の事情で走り出してしまったことを、きちんと本人に説明できていたのでしょうか。

また、受験に成功したからといって、その後が上手くいくとは限らない場合もありました。《勉強し、やっとの思いで合格したけれど、入学した学校の雰囲気が合わず、不登校》というケースもあります。

受験を始める前にもう少し子供の今の力を客観的に見てあげて、途中で疲れ果てそうになったときは、受験を辞めることも親として受け止めてあげることが必要です。その子の状態を親が受け止めてあげれば、たとえ受験に失敗しても、家族一緒に立ち直る力は残されることでしょう。私たちは、このような相談を伺うたびに、子供にとっての受験とは何なのか、合格したことが良かったのかと、複雑な思いをすることがあります。

子供が成長していく段階には、いくつものチャレンジがあり、克服することで成長するチャレンジの一つに「受験」があります。受験を失敗したことがきっかけで、不登校になることもあります。また、志望校に入学したけれど不登校になってしまうこともあります。

行く先々で、想定外のことが起きることは人生ではしばしば起こります。失敗した時やつまづいた時には、子供の成長過程の一つとして捉えていただきたいです。親をはじめ周囲の大人がそのことを理解し子供の挫折感と丁寧につき合っていくことが大切です。

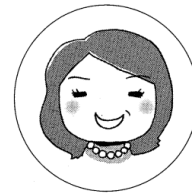
この時、子供の気持ちを受け止めることができたか、そうでなかったか。周囲の大人対応によっては、いつまでも失敗を引きずる子供になってしまうのです。失敗に関して、本人の恥ずかしさや、無念な気持ちをきちんと受け止めてあげるだけの力を周囲の大人が持っていないか、持てるかどうか。子供が受験に向かう前に大人が自分の気持ちをしっかり確かめたいものです。

執筆：認定特定非営利活動法人育て上げネット 「結」相談員 森 裕子・梶田 薫

「ニート・ひきこもりの子をもつ親の会『結』」
(運営：認定特定非営利活動法人育て上げネット)

若者の「働く」と「働き続ける」を実現するために、若年無業者就労基礎訓練プログラム「ジョブトレ」など、多方面からの支援を行っている「認定特定非営利活動法人育て上げネット」の活動の一つで、親をサポートするための会。1 か月ごとの定期相談やすぐに実施できる「接し方・伝え方」ワークショップ、親同士の気軽な茶話会などを提供している。

※執筆者の肩書等は、令和2年(2020年)3月現在のものです。



梶田さん



森さん

東京都教育庁「乳幼児期からの子供の教育支援プロジェクト」ホームページ